

「町田市教育プラン24-28」(原案)【概要版】

1 計画の概要

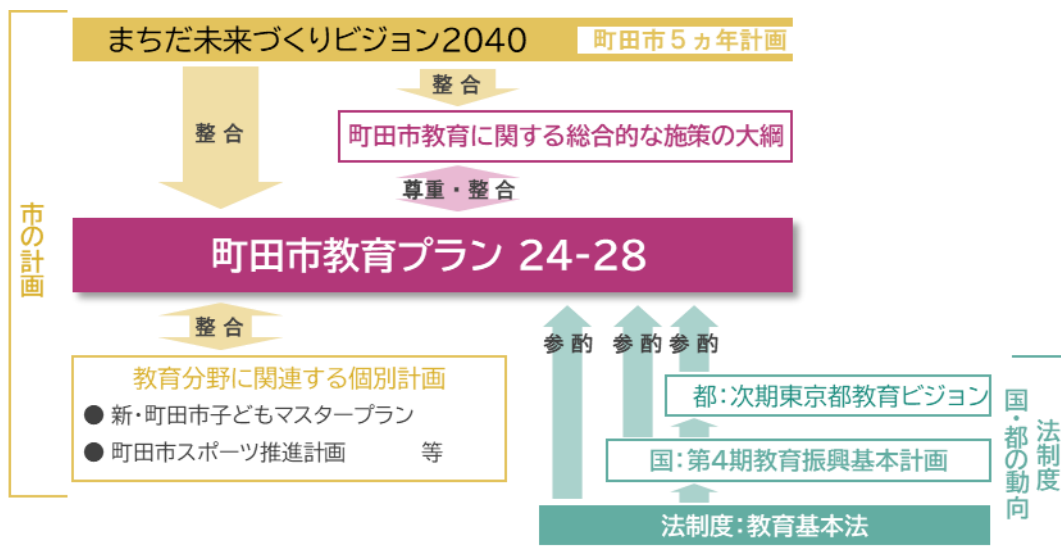
1 計画策定の主旨

「町田市教育プラン 24-28」(以下本計画とする)は、本市の教育を振興することを目的とした5年間の基本的な方針を定め、その実現に向けて取り組むべき施策・重点事業を、本市の現状や社会情勢、国・都の方針などを踏まえて策定、推進するものです。

2 計画の位置づけ

本計画は、本市の基本構想・基本計画である「まちだ未来づくりビジョン 2040」(2022年度～2039年度)及び「町田市5ヵ年計画 22-26」(2022年度～2026年度)の目標を実現するための、市の教育分野の総合的な計画として位置づけ、その他の本市の教育分野に関わる個別計画等との整合性を図るものとします。

▼町田市教育プラン 24-28 とその他の市計画及び国・都・法制度との位置づけ



町田市教育に関する総合的な施策の大綱と町田市教育プランの関係

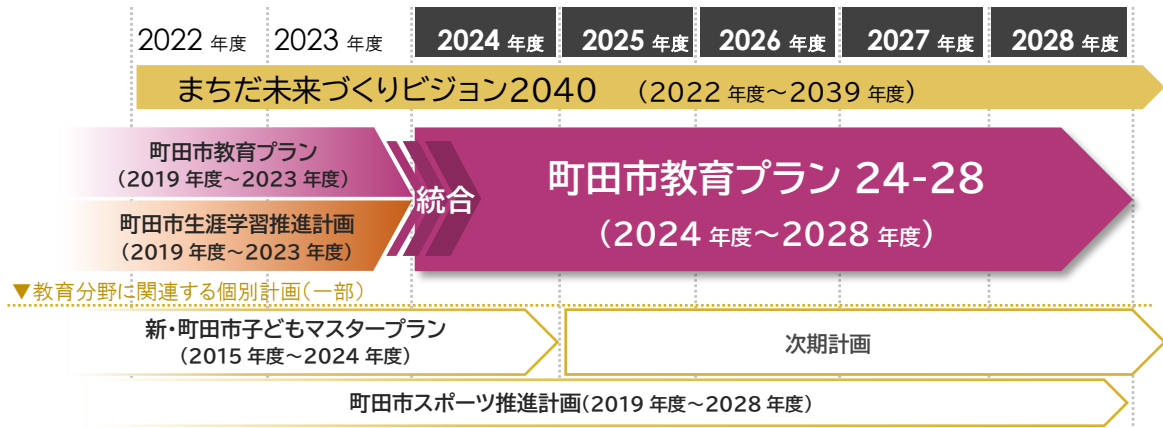
「町田市教育に関する総合的な施策の大綱」と、町田市教育プランの教育目標、基本方針との関係やその内容については、総合教育会議において市長と教育委員会が協議・調整を行った上で、策定します。

	町田市教育に関する総合的な施策の大綱	町田市教育プラン 24-28
根拠法令 ▶	地方教育行政の組織及び運営に関する法律	教育基本法
策定主体 ▶	地方公共団体の長 (総合教育会議において協議)	地方公共団体
策定方法 ▶	国の教育振興基本計画を参酌し、その地域の実情に応じて策定	
範囲 ▶	地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の教育大綱	地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画

3 計画の期間

本計画の計画期間は、2024 年度から 2028 年度までの5年間です。

▼町田市教育プラン 24-28 とその他の市計画の期間



4 計画の推進体制

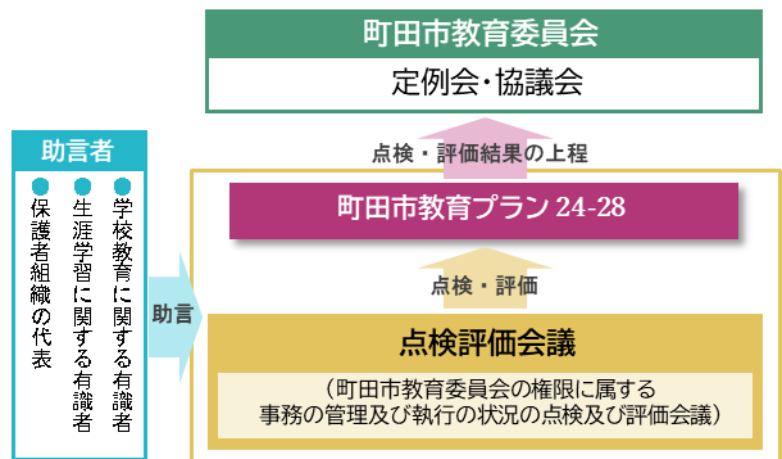
本計画の推進にあたっては、

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条に基づき実施する「町田市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価会議」（以下点検評価会議とする）にて、毎年度各取組の評価を実施し、次年度の取組に生かしていきます。

また、点検評価会議では、教育に係る専門的な知見及び保護者の視点から助言者に助言をいただきます。

点検及び評価結果については、教育委員会定例会にて議案として審議された後、公表いたします。

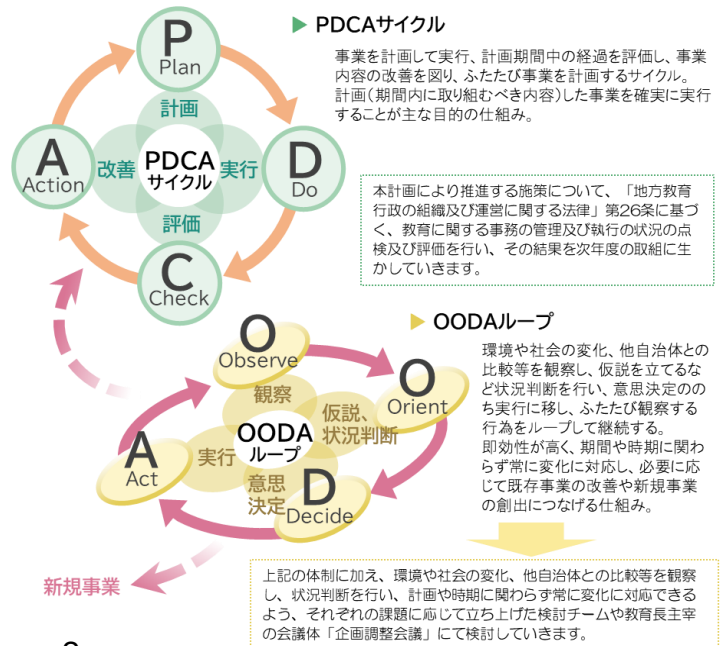
▼町田市教育プラン 24-28 を推進する上での点検評価の流れ



▼推進手法(PDCA サイクルと OODA ループ)

＜計画の推進手法＞

本計画では、一定の期間の中で、既存事業の円滑な推進と改善を目的とした仕組みである「PDCA サイクル」を活用するとともに、常に発生する様々な事象や要因に対応するため、既存事業の改善や新規事業の創出を目的とした仕組みである「OODA ループ」を活用して推進していきます。



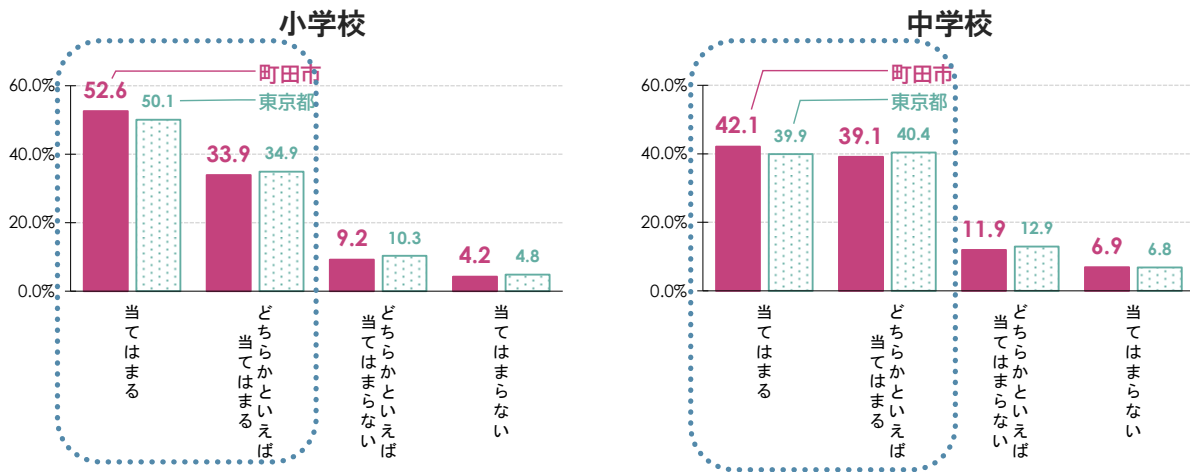
2 町田市の教育を取り巻く現状と課題

1 町田市の教育を取り巻く現状

本計画の方針を決定するにあたって検討した市の現状について、主な統計データやアンケート調査結果は次のとおりです。

▼関連データ① 児童生徒の学習の動機

「分かることやできることが楽しいから」と回答をした割合



現状

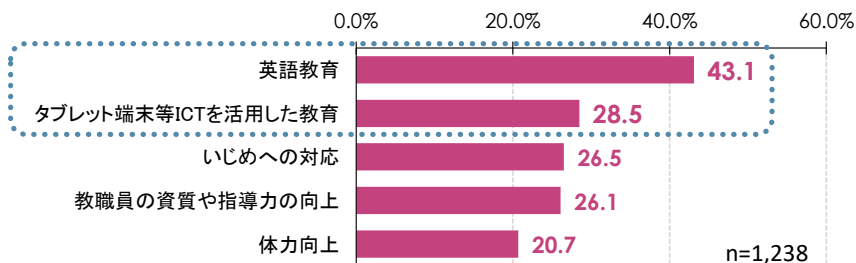
出典：東京都「令和4年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査」（2022年度）

東京都「令和4年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査」の「学習の動機」では、「しっかり考えられるようになりたいから」「将来の仕事や生活に役立つから」などの6つの項目がありますが、町田市の傾向として、「分かることやできることが楽しいから」の項目への肯定的回答（「当てはまる」及び「どちらかといえば当てはまる」の合計割合）が東京都と比較して小学校では1.5ポイント、中学校では0.9ポイント高い状況です。

▼関連データ② 学校教育へのニーズ

※全20項目のうち上位5項目のみ抜粋

町田市の学校教育で今後、力を入れていくことが望ましいもの



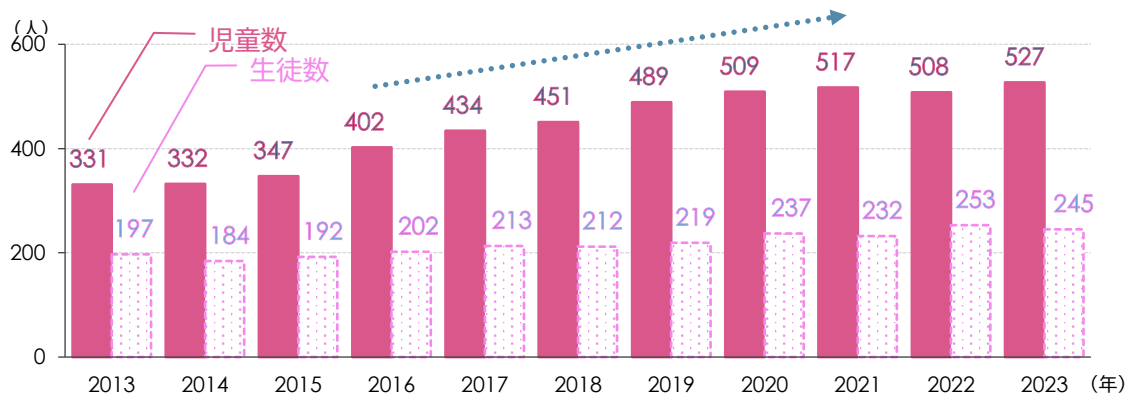
現状

出典：町田の教育に関するアンケート調査【保護者アンケート】（2022年度）

保護者を対象に実施した町田の教育に関するアンケート調査結果をみると、「英語教育」が43.1%と最も多く、次いで「タブレット端末等ICTを活用した教育」が28.5%という結果となっています。

▼関連データ③ 特別支援学級の状況

町田市の特別支援学級に通う児童生徒数の推移



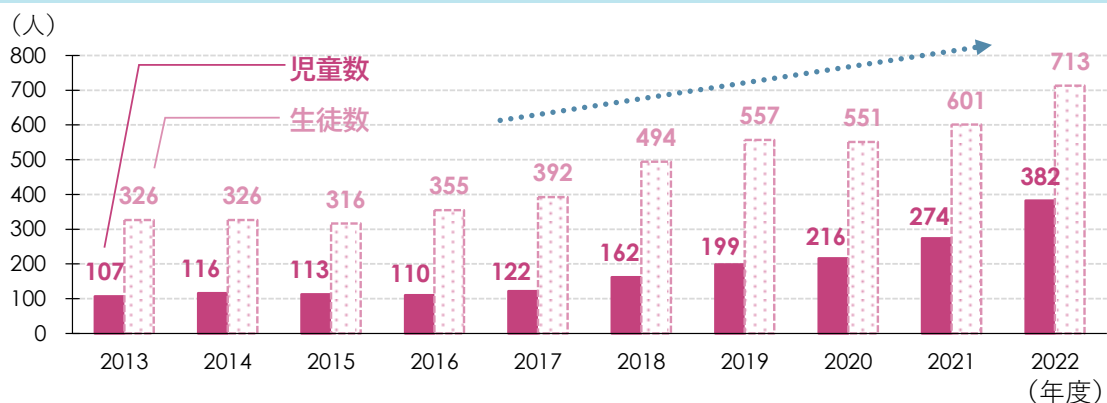
現状

出典：町田市教育委員会調べ（各年 5 月 1 日現在）

町田市の特別支援学級に通う児童生徒数は増加傾向にあり、児童数は2013年の331人から2023年には約1.6倍の527人となり、生徒数は2013年の197人から2023年には約1.2倍の245人となっています。

▼関連データ④ 不登校児童生徒の状況

町田市の不登校児童生徒数の推移



現状

出典：町田市教育委員会調べ（2022年度）

町田市の不登校児童数は、2017年度以降に増加傾向となり、2022年度は382人となっています。不登校生徒数は、2016年度以降に以前と比べて大きく増加するようになり、2022年度は713人となっています。

▼関連データ⑤ 教員の勤務状況

働き方改革プランに掲げる取組によって、負担が軽減したと思う教員の割合

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
負担が軽減したと思う教員の割合	60.0%	65.7%	64.2%	66.4%

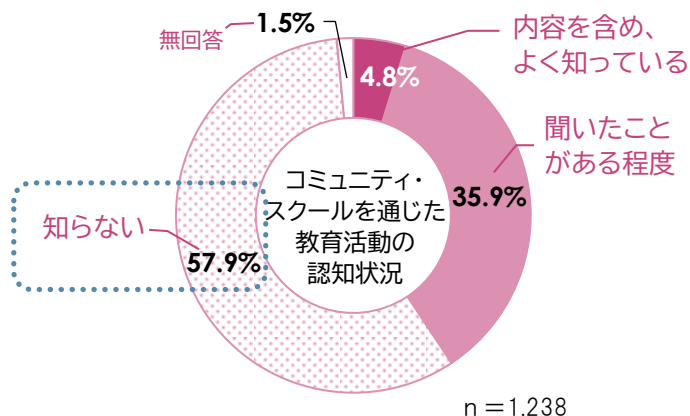
出典：町田市立小・中学校における働き方改革の取り組みに関するアンケート【教員アンケート】（2022年度）

現状

2019年度以降、教員への働き方改革の取組を実施したことにより、負担が軽減したと回答した教員の割合が6割で推移しています。

▼関連データ⑥ コミュニティ・スクールの状況

コミュニティ・スクールを通じた教育活動の認知度



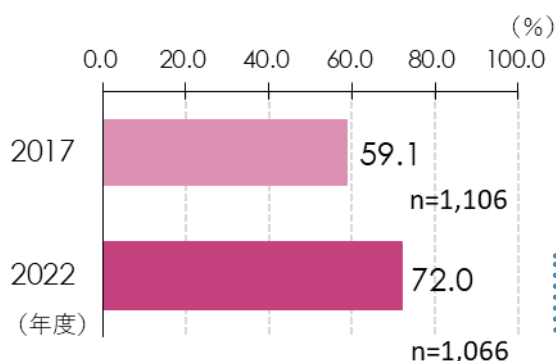
出典：町田の教育に関するアンケート調査【保護者アンケート】(2022年度)

現状

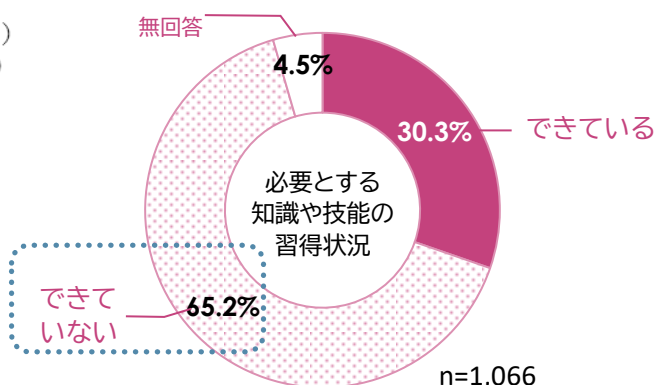
コミュニティ・スクールを通じた教育活動について「知らない」と回答した割合が 57.9%と、認知度が低い状況です。

▼関連データ⑦ 学びの機会の提供

(ア)この1年間に知識や技能を習得する機会があった市民の割合



(イ)必要とする知識や技能を十分に習得することができるか



出典：生涯学習及び図書館に関する市民意識調査 (2022年度)

現状

5年前の2017年度と比較して、「ア この1年間に知識や技能を習得する機会があった」と回答する方が 12.9 ポイント増加しました。
また、「イ 必要とする知識や技能を十分に習得することができるか」について、「できていない」(65.2%)は6割強となっており、「できている」(30.3%)の2倍近くとなっています。

2 本計画で取り組むべき課題

第3期計画での取組の振り返りを分析した結果を整理し、教育をはじめとする近年の様々な社会環境の変化を踏まえた上で、“本計画で取り組むべき課題”は次のとおりです。

第3期計画の振り返り

基本方針Ⅰ 学ぶ意欲を育て「生きる力」を伸ばす

振り返り 1 「分かることやできることが楽しいから」と回答した児童生徒の割合が多い。
P3 関連データ参照

振り返り 2 「町田ならではの学び」として進めてきたICT教育、英語教育への保護者のニーズが高い。
P3 関連データ参照

振り返り 3 児童生徒の体力や朝食摂取率が減少している。

基本方針Ⅱ 充実した教育環境を整備する

振り返り 4 2025年以降人口減少が予測され、学校施設の老朽化が進んでいる。

振り返り 5 特別支援学級に通う児童生徒が増加している。
P4 関連データ参照

振り返り 6 不登校児童生徒数が増加している。
P4 関連データ参照

振り返り 7 教員の働き方改革の取組を実施したことにより、負担が軽減したと回答した教員が6割である。
P4 関連データ参照

基本方針Ⅲ 家庭・地域の教育力を高める

振り返り 8 学校と地域・家庭が連携・協働を進めていけるようコミュニティ・スクールの全校実施を完了したが、コミュニティ・スクールを通じた教育活動については、まだ認知度が低い状況である。
P5 関連データ参照

基本方針Ⅳ 生涯にわたる学習を支援する

振り返り 9 社会変化に対応した生涯学習情報のデジタル化への取組実施。

振り返り 10 必要とする知識と技能を十分に習得することが「できていない」と回答した市民が6割強である。
P5 関連データ参照

社会環境の変化

社会環境の変化Ⅰ

デジタルトランスフォーメーション(DX)の加速化等に伴う学びの必要性の高まり

社会変化 1 デジタルトランスフォーメーションなど社会変化に応じたICT環境の整備・活用が加速化している。
また、そのような状況において、仕事や社会生活を送るうえで、必要な知識や技術を身に付けていく学び直しの必要性が増してきている。

社会環境の変化Ⅱ

子どもの権利や多様性を尊重する社会認識の醸成

社会変化 2 国はこども政策を総合的に推進するため、こども基本法を施行した。
町田市においても、(仮称)子どもにやさしいまち条例の策定が進められている。また、性の多様性への理解や海外にルーツのある子への配慮が浸透してきている。

社会環境の変化Ⅲ

持続可能な社会を目指すSDGsの理念の浸透

社会変化 3 持続可能な社会に向けた17のゴールであるSDGsが採択され、目標4では、誰一人取り残さない質の高い教育の実現が目標として掲げられている。

社会環境の変化Ⅳ

学校が抱える課題の複雑化・多様化

社会変化 4 子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題がより複雑化・多様化してきている。

町田市教育プラン24-28で取り組むべき課題

- 社会変化 1> 課題 1 社会変化に合わせた学びの推進が求められている。
- 振り返り 1> 課題 2 児童生徒の自己有用感や学習意欲の更なる向上が求められている。
- 振り返り 2> 課題 3 えいごのまちだなど町田ならではの学びを推進していくことが求められている。
- 振り返り 3> 課題 4 体力づくりや食の重要性を学ぶ機会の強化が求められている。
- 社会変化 2> 課題 5 児童生徒の意見を反映できる取組が求められている。
- 振り返り 10> 課題 6 市民への教育・学習の機会の創出が求められている。
- 振り返り 5 6> 課題 7 不登校児童生徒や特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりのニーズに対応した支援体制の充実が求められている。
- 社会変化 3> 課題 7
- 社会変化 1> 課題 8 全ての学びを必要とする市民への適切な学びの機会の保障が求められている。
- 振り返り 4> 課題 9 新たな学校づくりを契機とした学校施設の機能性能の確保やライフサイクルコストの縮減が求められている。
- 振り返り 9> 課題 10 リアルでもオンラインでも学ぶことのできる環境づくりが求められている。
- 社会変化 1> 課題 10
- 振り返り 7> 課題 11 教員の働き方改革の取組の更なる推進が求められている。
- 振り返り 8> 課題 12 地域が一体となって子どもたちの学びや育ちを支える環境づくりが求められている。
- 社会変化 4> 課題 12

未来を見据えた学びを推進する必要がある

基本方針Ⅰ

一人ひとりの学びを保障する必要がある

基本方針Ⅱ

学びの環境を整備する必要がある

基本方針Ⅲ

学びを支える体制づくりが必要である

基本方針Ⅳ

3 基本的な方向性

1 教育目標

町田市教育委員会が、町田市の教育施策を通じて、町田市の児童生徒、保護者、教員、市民とともに、2040年の社会を見据え、実現したい社会の姿を表すものとして、本計画の教育目標を下記のとおり設定します。

自ら学び、あなたと学び、 ともに創る町田の未来

「町田市教育委員会は、全ての市民一人ひとりが、学びを通して自らの生きがいを見つけ、他者への理解を深め、学び合うことで、自らが望む未来を創造することができる地域社会の構築を目指します。」

2 基本方針・施策に組み込む要素「学び続ける力」

生涯を通して学び続けていくことで、日常生活での楽しみや心の豊かさが得られるとともに、人間関係の構築や視野の拡大等により、生活がより豊かになります。加えて、他者との学び合いの活動の場を広げることで、発見や気づき、新たな考えの創出につながるなど学びの相乗効果が得られます。また、学んだ成果を市民活動や地域活動の中で生かすことで、地域がより豊かになります。

このようなことから、これからの町田の未来を考えたときに、全市民が生涯にわたって学び続ける学習者としての土台を学校教育で培うとともに、いつでも学ぶことができる環境を生かし、生涯を通して学び続けていくことが、より良い町田を創るために欠かせないことと捉え、「学び続ける力」を本計画の基本方針・施策に組み込む要素とします。

教育
目標

自ら学び、あなたと学び、ともに創る町田の未来

『教育目標』の実現に向けて

学び続ける力

本計画の基本方針、施策
に組み込む“要素”とする

生涯を通して自ら学び続ける力

課題を見つけて他者と学び合い
協力して解決する力

「学び続ける力」を育み、継続する仕組み

環境

学校・地域で学び続け
られる環境を整備する

市が取り組む「学び続けられる環境」の整備

- 課題を発見・解決するための支援
- いつでも学ぶことができる環境整備 など

教育

学校教育で「学び続け
る力」の土台を培う

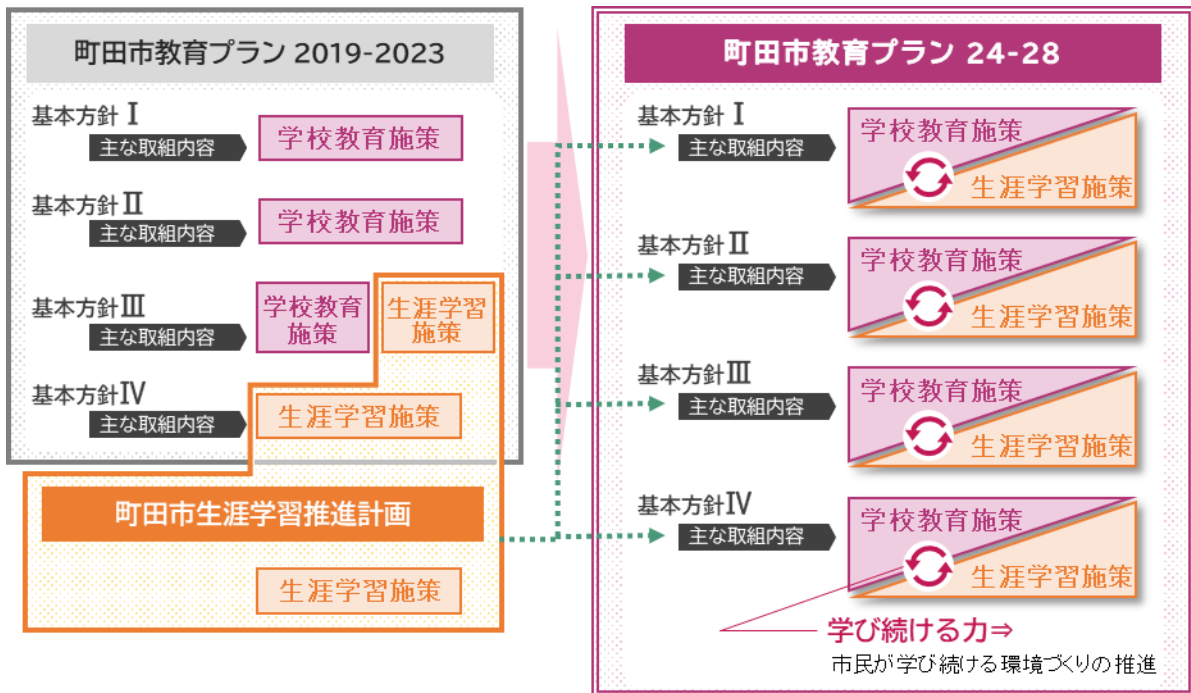
学校教育で培われる「学び続けられる力」の要素

挑戦 ポジティブ 粘り強さ 自己理解 他者受容 協調性 など

3 生涯学習推進計画の教育プランへの統合

これまで生涯学習を推進する計画として、教育プランとは別に生涯学習推進計画を策定し、施策や取組を進めてきました。しかし、社会の急速な変化や教育環境を取り巻く状況が大きく変化する中で、市民がライフステージに応じて切れ目なく必要な知識や技能を身に付けることや、生活に豊かさをもたらすことができるように、今後はこれまで以上に地域及び学校と連携し、生涯にわたって市民の学習の「しやすい」環境づくりを推進することが必要となります。

このため、本計画では生涯学習推進計画を統合し、従前の施策に加え、生涯学習の施策と学校教育の施策を同じ方針に織り込み、市民が学び続ける環境づくりを推進します。



4 計画策定にあたり必要な視点

教育目標の実現を目指し、町田市の特徴を最大限に生かすとともに、持続可能で魅力があり、教育に関わる全ての人々が満足感を得られる計画とするため、以下の3つの点を計画策定にあたり必要な視点とするとともに、重点事業として位置づけるための基準とします。

- デマンドサイドの視点**
 (サービスを受ける側の視点)
 - 児童生徒や保護者、教員、市民の満足度を向上させるため、デマンドサイドの視点を取り入れます。
 - 児童生徒などが求めている様々なニーズをしっかりと捉え、短期的な取組だけでなく、中長期的な取組を見据えた制度設計を行い、持続可能な施策とします。
 - 教員の勤務実態など、置かれている現状をきめ細かく把握・分析し、満足度向上に資する施策とします。
- 経営の視点**
 (環境変化を踏まえ効果的な事業展開を行う視点)
 - 計画に位置づける事業については、他自治体や民間事業者の事業をベンチマークし、より効果的な手法や事業内容とします。
 - 環境変化へ即応するため、事業成果が出る前の段階から次の事業展開を見据えることができるような仕組みを構築します。
 - SDGsやESD※、多様性の理解など社会的な価値観の変化へ対応するため、現時点で想定し得る将来を見据え、事業自体に柔軟な対応がとれるようにします。
- 独自性の視点**
 (町田市ならではの強みを生かす視点)
 - 市の現状や未来を見据えた状況を考慮した事業内容とします。
 - 町田市ならではの教育を目指し、他自治体に先駆けて実施している新たな学校づくりなどを契機とした魅力的な事業とすることで、町田の教育の質を高めます。

※ESD…持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development)

5 基本方針

4つの基本方針の内容と目指す姿は次のとおりです。

教育目標

自ら学び、あなたと学び、ともに創る町田の未来

学び
続ける力

基本方針

I 未来を切り拓くために生きる力を育む

内容

えいごのまちだ推進事業など、町田ならではの強みを生かし、これからの時代に必要な知識・技能・判断力・表現力・創造力・粘り強さやコミュニケーション能力を学びのプロセスを通じて育みます。

目指す
姿

自ら進んで目標を設定しその達成に向け、振り返りや学習方法の工夫をするなど学び続ける基盤を身に付け、生涯にわたり学びを通じて、社会とつながっている。

II 一人ひとりの多様な学びを推進する

内容

一人ひとりの教育的ニーズは異なるという前提に立ち、それぞれの特性に応じた多様な学びを推進します。

目指す
姿

どのような状況にあっても、学びたいという意欲を妨げられることなく、安心して学びに向き合い、学び続けることができている。

III 将来にわたり学ぶことができる環境を整備する

内容

新たな学校づくりを契機とした、子どもも大人も学ぶことのできる学校づくりや、社会の変化に応じて、学習施設だけでなくデジタルでも学びにアクセスできるような多様な学びの環境づくりを推進します。

目指す
姿

環境変化に対応し、いつでもどこでも誰でも学びに出会うことができ、学び続けることができる環境が整備されている。

IV 地域とともに学ぶ力を高める

内容

学校、地域、家庭、市民団体、行政が共創することで、学びの場を広げ、学ぶ力を育む体制を充実させ、地域で学び続ける力を高めていきます。

目指す
姿

地域資源を生かし、共創により学校を中心とした多様な学びが充実し学び続けることができている。



計画策定にあたり
必要な視点

(1)デマンドサイド(児童生徒、保護者、教員、市民)の視点
(2)経営の視点 (3)独自性の視点

6 施策の体系

4つの基本方針における13の施策及び42の重点事業の関係性を表す体系は次のとおりです。

施策	重点事業
基本方針Ⅰ 未来を切り拓くために生きる力を育む	
1 確かな学力を身に付ける	1 児童生徒の「学び続ける力」を高めるための授業の改革 2 放課後学習の充実
2 未来を見据えた特色ある学びを推進する	3 えいごのまちだの推進 4 STEAM教育の視点を取り入れた科学教育の充実 5 ICTを活用した学びの充実 6 キャリア教育の推進 新規7 町田市の未来の学びLab
3 生涯を通じて健やかに過ごせる体を育成する	8 健康教育の推進 9 「わかる・できる・楽しい」体育授業の実践 10 楽しく運動する機会の充実 11 学校給食を活用した食育の推進
4 他人への理解、豊かな心、思いやりを育む	12 「いじめを防ぐ・いじめに気付く・いじめから守る」取組の推進 新規13 児童生徒が主体的に考え、伝え合う機会の充実
5 学びのきっかけとなる機会を提供する	14 まちだの歴史・文化を学ぶ機会の充実 15 ことばの魅力を伝える「ことばの扉」事業の推進 16 子ども・若者の読書活動の推進 17 学びの入口の充実 18 学びにつなげる図書館体験
基本方針Ⅱ 一人ひとりの多様な学びを推進する	
1 不登校児童生徒への支援を推進する	19 不登校児童生徒への支援の充実
2 一人ひとりの特性に応じた特別支援教育を推進する	20 特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実
3 誰もが学べる機会を提供する	新規21 帰国・外国籍児童生徒等への日本語指導の充実 22 学びのセーフティーネットの充実 23 多様な図書館サービスの提供
基本方針Ⅲ 将来にわたり学ぶことができる環境を整備する	
1 未来を見据えた多様な学びの環境を整備する	24 学校におけるICT環境の整備 25 特別支援学級等の整備 26 不登校児童生徒の学習環境の整備 27 新たな学校づくりの推進 新規28 安心できる通学環境の整備 新規29 学校プール施設の機能向上 30 学校図書館の機能強化
2 学び続けることができる環境を整備する	31 生涯学習情報のデジタル化の推進と学習相談体制の整備 32 まちだの歴史・文化資源の保存と活用環境の整備 33 図書館再編と運営体制の構築
基本方針Ⅳ 地域とともに学ぶ力を高める	
1 学校と地域が連携した学びを推進する	34 コミュニティ・スクールの推進 35 部活動の地域連携の推進 新規36 学校施設活用の推進
2 地域での学びを推進する	37 地域での学びの拡充 新規38 図書コミュニティ施設の運営支援 39 地域で活動する図書館ボランティアの育成・支援 新規40 学びのネットワークづくりの促進
3 教員の働き方を改善する	新規41 教員が担う業務の負担軽減 新規42 学校支援体制の強化

4 施策及び今後の取組

施策ごとの目指す姿や成果指標の内容、また、それぞれの重点事業の概要は次のとおりです。

基本方針Ⅰ 未来を切り拓くために生きる力を育む

施策1 確かな学力を身に付ける

目指す姿 児童生徒が、自ら進んで目標を設定したり、学習方法を工夫したりしながら学び続けることができる。

成果指標 **指標** 自分で計画を立てて学習している児童・生徒の割合
(東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査)

現状値 (2022年度)		目標値 (2028年度)	
小学4～6年生	68.6%	小学4～6年生	73.0%
中学1～3年生	64.9%	中学1～3年生	70.0%

重点事業

1 児童生徒の「学び続ける力」を高めるための授業の改革

児童生徒が自己の特性や進度・意欲に合わせ、自身で計画を立て、課題設定や情報収集等を考えたり、一人ひとりの特性を生かし、互いに補完し合いながら学習に取り組んだりできるように、授業の改革に取り組みます。教員の意識改革を促進するための研修や実践事例を教員間で共有するための教員用ポータルサイトの導入、既存の教材や動画を用いて児童生徒が自分で学べるシステムを構築し、個人が学べる学習支援サイトを整備します。

2 放課後学習の充実

子どもたちの基礎学力の向上を目的として、学校の授業以外での学習習慣の定着を目指し、中学校の放課後を活用した「地域未来塾（放課後学習教室）」を実施するとともに、学校間での情報共有・好事例を紹介し、学習活動の充実を図ります。

施策2 未来を見据えた特色ある学びを推進する

目指す姿 未来を見据えた町田ならではの学びの提供により、児童生徒が将来の夢や目標を持っている。

成果指標 **指標** 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合
(全国学力・学習状況調査)

現状値 (2022年度)		目標値 (2028年度)	
小学6年生	77.1%	小学6年生	85.7%
中学3年生	65.9%	中学3年生	75.3%

重点事業

3 えいごのまちだの推進

英語によるコミュニケーションを積極的に図る態度やコミュニケーション能力の育成を目指し、外国語指導助手(ALT)との国際交流イベント「イングリッシュ・フェスタ」や「スノーピーミュージアム校外学習」など、校内外での体験活動を重視した町田ならではの英語教育を推進します。

4 STEAM教育の視点を取り入れた科学教育の充実

科学教育センターにおいて、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Arts（芸術・人文社会科学）、Mathematics（数学）の要素を横断的に取り入れながら、大学、高等学校、企業等の外部人材と連携を図り、先端の科学に関する講座など学校の授業では経験できないような専門性の高い講座を実施します。

重点事業

5 ICTを活用した学びの充実

児童生徒一人ひとりの特性に応じた学びや協働的な学び合いを意識した授業を実践できるよう、教員のICTスキル向上を図ります。また、各種調査や学習ドリルソフトの取組状況等の教育データを利活用し、学習支援の充実を図ります。

6 キャリア教育の推進

中学生職場体験事業に加え、販売体験や金融教育講座など学校の特色に応じた取組を実施し、他者と関わる機会や自分を見つめる機会等を設けることで、児童生徒が自分自身のことや、自分なりの学ぶ意義を理解することにつなげます。

7 町田市の未来の学びLab

学力向上や体力向上等の町田市の教育施策をより効果的なものとするために、教育委員会が主体となって大学等の研究機関と共同で、教育分野に限らず様々な専門分野から子どもをとらえる研究を行い、子ども達の学習支援等の手立てに活用できるようにします。

施策3 生涯を通じて健やかに過ごせる体を育成する



児童生徒が、体力づくりや食の重要性について学ぶことで、生涯を通じて健やかに過ごすための生活習慣を身に付けている。



指標 学校の体育の授業以外で、1日に1時間以上運動する児童・生徒の割合（全国体力・運動能力、運動習慣等調査）

現状値（2022年度）		目標値（2028年度）	
小学5男子	49.2%	小学5男子	54.0%
小学5女子	28.5%	小学5女子	34.0%
中学2男子	72.3%	中学2男子	80.0%
中学2女子	52.7%	中学2女子	59.0%



指標 朝食を毎日食べる児童・生徒の割合（全国体力・運動能力、運動習慣等調査）

現状値（2022年度）		目標値（2028年度）	
小学5年生	86.2%	小学5年生	90.0%
中学2年生	80.7%	中学2年生	85.0%

重点事業

8 健康教育の推進

児童生徒が自分の生活習慣（適切な運動、食事、休養及び睡眠）や心身の状態について考え、健康的な生活習慣の確立に向けた取組を推進します。

9 「わかる・できる・楽しい」体育授業の実践

運動の専門家や体育授業サポーターを活用したきめ細かい指導を行い、児童生徒が運動の仕方や身に付ける動きが「わかる」、基本的な動きが「できる」、体を動かすことが「楽しい」という経験を積み重ね、運動に親しむ態度を育成します。

10 楽しく運動する機会の充実

体育授業以外に休み時間等を活用した運動遊びの充実、連合体育大会や体力向上パワーアップDAYなどのイベントといった様々な運動の機会を設定することで、生涯にわたって運動に親しむ子どもを育成します。

11 学校給食を活用した食育の推進

子どもたちが、給食をはじめ、食に関わる学びや体験を通じて、食に関する知識を深めながら望ましい食選択、食行動を実践できる力を育てるよう、小・中学校9年間の学校給食を活用した「食育プログラム」や事業者とのコラボレーション給食など、様々な取組から食育を推進します。

施策 4 他人への理解、豊かな心、思いやりを育む

目指す姿 児童生徒が自分の考えと違う他人に対して理解し、豊かな心、思いやりをもっている。

成果指標 **指標** 人が困っているときは、進んで助けている児童生徒の割合
(全国学力・学習状況調査)

現状値 (2022年度)		目標値 (2028年度)	
小学6年生	87.4%	小学6年生	93.0%
中学3年生	85.5%	中学3年生	91.0%

成果指標 **指標** 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う児童生徒の割合
(全国学力・学習状況調査)

現状値 (2022年度)		目標値 (2028年度)	
小学6年生	72.4%	小学6年生	80.0%
中学3年生	76.6%	中学3年生	80.0%

重点事業

12 「いじめを防ぐ・いじめに気付く・いじめから守る」取組の推進

いじめ問題の未然防止、早期発見、早期解決を図るため、アンケート調査や心理検査を活用した学級満足度等の測定、いじめ匿名連絡サイト「スクールサイン」の活用等により児童生徒の実態を認識し、学校・家庭・地域で連携して取組を推進します。

13 児童生徒が主体的に考え、伝え合う機会の充実

児童生徒の身の回りで起きていることや関心のあること等について、自分で考え、友達と議論をし、さらに町田市内の児童生徒の代表が集まる町田市児童生徒フォーラムで意見交換をします。そして考えたことを発表し、各学校での取組に生かしていきます。

施策 5 学びのきっかけとなる機会を提供する

目指す姿 市民が身近な場所で学びに触れる機会が充実している。

成果指標 **指標** 生涯学習活動を行う機会をもつことができた市民の割合
(町田市市民意識調査)

現状値 (2022年度)		目標値 (2028年度)	
	24.7%		41.5%

成果指標 **指標** 本を読む市民の割合 (町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査)

現状値 (2022年度)		目標値 (2028年度)	
	59.1%		68.0%

重点事業

14 まちだの歴史・文化を学ぶ機会の充実

歴史や文化を大切に、郷土に愛着や誇りをもてるよう、児童生徒向けに小・中学校の授業に役立つプログラムを作成します。また、市民向けに町田市固有の歴史・文化資源を活用した講座や展示を市民センター等で実施します。

15 ことばの魅力伝える“ことばの扉”事業の推進

未来を担う若い世代に、ことばや文字、文学の魅力を伝え、新たな学びのきっかけとなるような展覧会や教育普及事業、ショートショートコンクールなど、ジャンルにとらわれることなく幅広く取り込んだ事業を展開します。

16 子ども・若者の読書活動の推進

「第五次町田市子ども読書活動推進計画（2025年度～2029年度）」の策定と推進及び、子どもや若者がイベント等への参画を通じて図書館や読書に興味をもつきっかけづくりをします。また、文学館でも本の魅力を伝える展覧会・イベントを開催します。

17 学びの入口の充実

2023年2月に策定した「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、学びに出合う「きっかけづくり」に重点を置いた入門講座の充実を図ります。また、生涯学習センターの利用増を図る事業を検討し実施します。

18 学びにつなげる図書館体験

自分に合った図書館の利用方法を知ってもらうための講座や、レファレンスサービスを身近に感じる取組を実施します。移動図書館では本との出会いをつくるためにイベント出張運行や保育園・幼稚園への訪問活動を実施します。

基本方針Ⅱ 一人ひとりの多様な学びを推進する

施策1 不登校児童生徒への支援を推進する



不登校児童生徒への支援を推進することで、不登校児童生徒が、自身に合った学習環境を選択している。



指標	教育支援センター利用者満足度 (町田市教育支援センター利用者アンケート) ※不満を1、満足を10とした場合の利用者の評価点の平均点
----	---



重点事業

19 不登校児童生徒への支援の充実

不登校児童生徒一人ひとりがニーズに応じた学びを進めることができるよう、学校内での教室以外の居場所づくりや学習支援、学校外での居場所づくりとなる教育支援センターの複数設置、学びの多様化学校（不登校特例校）の設置に向けた準備を進めます。

施策2 一人ひとりの特性に応じた特別支援教育を推進する



特別支援教育を受けている児童生徒が特性に応じた支援を受けている。



指標	特別支援学級在籍及びサポートルーム利用に満足している保護者の割合 (町田市特別支援教育利用状況調査)
----	---



重点事業

20 特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実

特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりが生活や学習での困難を克服し、個々の能力を最大限生かしていけるよう、特別支援教育支援員の配置、教員の専門スキル向上の研修実施、通常の学級向け及び障がい種別ハンドブックの作成など支援の充実を図ります。

施策 3 誰もが学べる機会を提供する



誰もが、必要とする知識や技能を習得する機会がある。



指標 帰国・外国籍児童生徒等が日本語指導を利用し、日常会話ができる程度に日本語を習得できている割合（町田市日本語指導利用状況調査）

現状値（2022年度）	目標値（2028年度）
—	100.0%



指標 必要とする知識や技能を十分に習得できている市民の割合（町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査）

現状値（2022年度）	目標値（2028年度）
30.3%	40.0%

重点事業

21 帰国・外国籍児童生徒等への日本語指導の充実

日本語指導を必要としている帰国・外国籍児童生徒等一人ひとりが、ニーズに応じた指導を受けられるよう、関係者連絡会の開催や町田市版日本語指導手引きを作成します。

22 学びのセーフティーネットの充実

障がい者青年学級事業と学習支援事業がより多くの方に届くよう検証し、持続可能な仕組みづくりを行います。また、デジタルデバイド対策事業をさらに拡充するために、これまでの事業の検証と実施方法の検討を行います。

23 多様な図書館サービスの提供

対面朗読、音訳資料や点訳資料の制作・貸出、デジジー（デジタル録音図書）再生機器の貸出、来館が困難な市民への宅配などの様々なサービスを提供し、市民が利用しやすい方法で読書ができるよう支援します。また、障がい者サービスを知ってもらえるようなPRを行います。

基本方針Ⅲ 将来にわたり学ぶことができる環境を整備する

施策 1 将来を見据えた多様な学びの環境を整備する



社会環境が変化する中でも、その状況に対応し、小・中学校の教育環境が整備されている。



指標 町田市立の小学校、中学校は教育環境が整っていると思う市民の割合（町田市市民意識調査）

現状値（2022年度）	目標値（2028年度）
43.7%	54.6%



指標 一人ひとりに配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を授業でほぼ毎日活用している学校の割合（全国学力・学習状況調査）

現状値（2022年度）		目標値（2028年度）	
小学6年生	81.0%	小学6年生	100.0%
中学3年生	40.0%	中学3年生	100.0%



指標 市や警察が行う交通安全の取組のうち、「見守りや点検等の通学路での子どもの交通安全確保」について、以前より進んだと思う市民の割合（町田市交通安全に関する市民意識調査）

現状値（2021年度）	目標値（2026年度）
29.5%	36.0%

成果
指標

指標 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）読書をする児童・生徒の割合（全国学力・学習状況調査）

現状値（2022年度）		目標値（2028年度）	
小学6年生	75.3%	小学6年生	81.4%
中学3年生	66.5%	中学3年生	71.4%

重点事業

24 学校におけるICT環境の整備

ICTを活用し、誰一人取り残すことのない教育を実現するため、児童生徒及び教員用のタブレット端末や普通教室における大型提示装置及び実物投影機の更改など、学校におけるICT環境の整備を推進します。

25 特別支援学級等の整備

特別な支援を必要とする児童生徒がより充実した学習環境で学べるよう、知的障がい特別支援学級または自閉症・情緒障がい特別支援学級の新規開設など、特別支援学級等の整備を行います。

26 不登校児童生徒の学習環境の整備

不登校の児童生徒が安心して学習に取り組むことができるようにするため、教育支援センターの複数設置や学びの多様化学校（不登校特例校）の設置など、学習環境を整備します。

27 新たな学校づくりの推進

学校を取り巻く環境変化に柔軟に対応しながら、町田に生まれ育つ未来の子どもたちが夢や志をもち、未来を切り拓くために必要な資質・能力を育むことができる環境を創出するため、また、大人もともに学び、ともに育つ場をつくるため、新たな学校づくりを推進します。

28 安心できる通学環境の整備

学校統合により懸念される通学の安全確保について、道路管理者及び交通管理者等と連携し、通学路の安全対策に取り組むとともに、通学路の見守り活動の好事例を収集・整理・共有を図り、児童が安心して通学することができる環境を整備します。

29 学校プール施設の機能向上

天候や熱中症の影響を受けずに、計画的にプール授業ができるなど教育環境をつくるため、学校プールの屋内化及び拠点化と市有温水プールの活用を行い、プール施設数の集約を図ります。

30 学校図書館の機能強化

児童生徒が本に触れ合う機会を増やし、豊かな知識や心をもつことができるよう、学校図書館図書標準達成の維持や、学校図書館の運営を担う人材確保など通じて、学校図書館の機能を強化していきます。

施策 2 学び続けることができる環境を整備する

目指す
姿

市民が生涯にわたり学習しやすい環境が整備されている。

成果
指標

指標 生涯学習活動を行う機会を持つことができた市民の割合（町田市市民意識調査）

現状値（2022年度）	目標値（2028年度）
24.7%	41.5%

成果
指標

指標 町田市内にある文化財の中で知っているものがある市民の割合（町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査）

現状値（2022年度）	目標値（2028年度）
80.0%	89.0%

重点事業

31 生涯学習情報のデジタル化の推進と学習相談体制の整備

生涯学習の情報を一元化・データベース化して学習相談に活用し、学ぶ意欲のある個人や団体をつなぐ学習相談コーディネーター制度を導入します。民間活力を導入し、実施講座のデジタル配信やアーカイブ化を推進します。

32 まちだの歴史・文化資源の保存と活用環境の整備

「町田デジタルミュージアム」を更新し、アウトリーチ事業の実施や町田市の歴史や文化を学ぶデジタルコンテンツの作成と公開をします。また、新たな「町田市史」編さんに向けて、様々な課題や重要史料の整理を進めます。

33 図書館再編と運営体制の構築

図書館サービスを安定的に果たし、新たな価値を創出するため、図書館再編と運営体制の効率化の取組を進めます。さるびあ図書館と中央図書館については、地域住民との対話を通じ、最適な集約方法を検討します。また、鶴川図書館については、地域住民の運営への参画を進め、多世代が交流できるきっかけを提供する図書コミュニティ施設への転換を図ります。

基本方針Ⅳ 地域とともに学ぶ力を高める

施策 1 学校と地域が連携した学びを推進する



学校と地域が一体となって、児童生徒の学びを推進している。



指標 学校は保護者や地域と一体となって子どもたちを育てていると回答した保護者の割合（町田市立小・中学校学校評価における保護者対象アンケート）

現状値（2022年度）		目標値（2028年度）	
小学生	86.4%	小学生	96.0%
中学生	73.0%	中学生	83.0%

重点事業

34 コミュニティ・スクールの推進

学校と地域住民や保護者等が目指す目標やビジョンを共有し、協働していくことで、子どもたちのより豊かな教育活動の充実を図ります。多様な人材が学校で活躍でき、地域と学校がともに成長することを推進するため、地域学校協働本部の地域人材データに基づいた「町田市学校支援人材バンク」の創設・活用などの取組を実施します。

35 部活動の地域連携の推進

地域と連携した新しい部活動の在り方を検討し、地域連携に関する方針を決めていきます。また、部活動指導員を配置し、生徒たちが、スポーツや文化活動を継続して楽しむことができる機会を確保します。

36 学校施設活用の推進

地域の拠点となる学校を、子どもや地域の方が利用しやすくするため、利用申込のシステム化や地域スポーツクラブ等の民間事業者と連携したスポーツ・文化活動イベントを実施します。また、利用時の学校施設の適切な管理とセキュリティ確保のため、施設管理業務の委託化や新設・改修時のセキュリティラインを設定します。

施策 2 地域での学びを推進する



市民が地域の様々な場所で、学校・団体・企業などと連携し学びに参画することで、地域が活性化している。



指標 この1年間に生涯学習施設等を利用したことがある市民の割合（町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査）

現状値（2022年度）		目標値（2028年度）	
	63.8%		70.0%

成果
指標

指標

この1年間に市民活動（ボランティアやNPOなど）や地域活動（町内会・自治会、子ども会など）に参加した市民の割合
（町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査）

現状値（2022年度）

32.5%

目標値（2028年度）

45.0%

重点事業

37 地域での学びの拡充

市民ニーズに沿った学びを拡充するため、市民企画事業や市民大学等の市民企画・参画型講座を整理し、市民参画の仕組みを整えます。また、社会環境の変化に対応し、地域の子育て世代に向けた家庭教育支援事業を再構築し、地域での学びの機会拡充のため、市民センターや図書館等を利用した講座のアウトリーチを推進します。

38 図書コミュニティ施設の運営支援

鶴川図書館について、地域住民の運営への参画を進め、多世代が交流できるきっかけを提供する図書コミュニティ施設への転換を図ります。

39 地域で活動する図書館ボランティアの育成・支援

魅力的な本と出会い読書に関心をもってもらうため、本と触れ合うことができる活動がより地域で活発に行われるよう、点訳や音訳のボランティアの技術向上や、おはなし会の担い手の裾野を広げるための講座を開催し、地域や学校で活動するボランティアを支援します。

40 学びのネットワークづくりの促進

学びの循環や学び直しにつなげるため、生涯学習センターが実施する講座を受講した方の受講後の活動支援や社会人向けリカレント・リスキル教育情報の収集・整理・提供を行います。また、各小・中学校で地域と学校の協働活動を充実させるため、生涯学習ボランティアバンクを積極的に活用し、多様な人材が学校で活躍できるよう支援します。

施策3 教員の働き方を改善する

目指す
姿

教員の業務の縮減・適正化を進めることで、教員が働きがいをもって働くことができている。

成果
指標

指標

仕事と生活の調和がとれていると回答した教員の割合
（町田市立小・中学校における働き方改革の取り組みに関するアンケート）

現状値（2022年度）

48.9%

目標値（2028年度）

60.0%

重点事業

41 教員が担う業務の負担軽減

教員が専門性を最大限発揮できるように、校務課題の整理や調査業務の見直し、学校行事等の精選・効率化などを通じて、教員が本来担うべき業務を精査・整理し、負担軽減を図ります。

42 学校支援体制の強化

学校を取り巻く様々な課題に対応できるよう、多様な専門性を有する人材（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、ICT授業支援員等）や業務負担を軽減するための人材（副校長補佐、スクール・サポート・スタッフ）を配置します。また、校長の学校マネジメントへの支援や働き方改革に関する取組について保護者や地域への周知を行います。

5 町田市教育プラン 24 - 28 策定スケジュール

2022 年度	会 議 等	主な協議内容等
6 月	教育委員会協議会	策定方針について
	第 1 回生涯学習審議会	策定方針について
7 月	教育委員会定例会	策定方針決定
	第 1 回町田市教育プラン策定検討委員会	策定方針等について
9 月	第 2 回町田市教育プラン策定検討委員会	教育目標・基本方針・施策体系について
11 月	第 2 回生涯学習審議会	基本方針・施策体系について
	第 3 回町田市教育プラン策定検討委員会	アドバイザーへ骨子案提示
12 月	第 4 回町田市教育プラン策定検討委員会	施策体系、重点事業について
	第 3 回生涯学習審議会	重点事業について
	教育委員会協議会	教育プラン骨子案について
	2022 年度総合教育会議	教育大綱について
1 月	第 5 回町田市教育プラン策定検討委員会	重点事業について
	経営会議	施策の方向性・考え方の柱の承認
2 月	教育委員会定例会	骨子確定
	第 6 回町田市教育プラン策定検討委員会	施策指標等について
3 月	市議会行政報告	骨子確定

2023 年度	会 議 等	主な協議内容等
5 月	第 4 回生涯学習審議会	原案について
	第 7 回町田市教育プラン策定検討委員会	アドバイザーへ原案提示
6 月	教育委員会協議会	原案について
	2023 年度第 1 回総合教育会議	教育大綱素案について
7 月	経営会議	施策体系・指標の決定
8 月	教育委員会定例会	原案決定
9 月	市議会行政報告	原案・パブリックコメントの実施について
10 月	第 5 回生涯学習審議会	原案・パブリックコメントの実施について
	パブリックコメントの実施	
11 月	第 8 回町田市教育プラン策定検討委員会	パブリックコメント実施結果について
	教育委員会協議会	パブリックコメント実施結果について
12 月	市議会行政報告	パブリックコメント実施結果について
1 月	第 9 回町田市教育プラン策定検討委員会	教育プラン案について
	教育委員会協議会	教育プラン案について
2 月	2023 年度第 2 回総合教育会議	教育大綱案について
	教育委員会定例会	教育プランの確定
3 月	教育大綱確定	
	市議会行政報告	教育プランの確定